（事後評価）

キャリアウェイ・ユニバーサル化日大モデル

（実施期間：平成 20～22 年度）

実施機関：日本大学（総括責任者：大塚　吉兵衛（酒井 健夫、小嶋 勝衛））

プロジェクトの概要

日本大学の特徴を生かして、産業界を含む多様な女性研究人材開発と次世代の継続的な育成、男女共同参画・女性研究者支援のユニバーサル化を推進する。

①全学的推進体制構築と意識環境整備、病児保育等の両立支援を実施する。

②ＩＴを利用した研究・生活・会議支援を促進する。

③ 理系選択支援（入口）から産業界を含めた多様な職業選択と継続（出口）までの実効的支援、重点部科校整備により、次世代の継続的な育成とイノベーション創出を目指す。

④ 女性研究者の積極的採用と地位向上のため、キャリアＵＰ支援を行い、モデル学部においては採用数値目標を設定する。

⑤ 関係部署、部科校、同窓会との連携によりワーク・ライフ・バランスに配慮した職場とする。

（1） 評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
A	s	a	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

（2） 評価コメント

独立性の高い多数の部局を抱えた大規模大学でありながら、総長のリーダーシップの下、WEB 会議システムの導入、SNS を利用した相談体制の整備、キャリアＵＰ支援などの取組をモデル学部から全学に展開し、環境整備及び意識改革の推進により女性教員の大幅な増加につなげたことは評価できる。今後は本事業の実施により構築した全学体制により、取組を継続、発展させていくことを期待する。

目標達成度：モデル学部、モデル付属高校を設定し、女性研究者支援、次世代育成等の取組を効率的に実施するとともに、女性研究者支援推進ユニットを介して取組をモデル学部から全学へと展開し、女性研究者の環境整備、及び博士後期課程女子大学院生比率の数値目標を達成した点が高く評価できる。

システム改革の成果：男女共同参画意識の醸成が進んだことにより、女性教員優先採用枠を設定していないにもかかわらず安定的な職の女性教員の採用が進められた。特に、自然科学系分野においては 7 名の女性教授が誕生したことは評価できる。

取組：女性教員、OG を紹介するロールモデル集の作成、また、付属中学高校の女子生徒を対象とした理系選択支援を実施しており、女子中高生の理系選択率の増加につながったことは評価でき

る。
波及効果：私立大学のネットワーク構築を推進し、また、私立大学の連携強化を図った合同シンポジウムを開催するなど、私立大学への波及効果は評価できる。
実施体制：総長の積極的なリーダーシップの下、全学的な専門部会を設置し、附属中学高校までを含んだ全学的な取組を実施したことは評価できる。
実施期間終了後における取組：今後、取組の推進体制を部局へ移行し、自主的な実施を目指すとしているが、自主的な取組の実施は難しいと考えられる部局もあり、全学的な取組として十分ではない。引き続き総長の強いリーダーシップによる取組の推進が必要である。